

文化・芸術

「コップを持ち子ども」

1942年12月、鉛筆、コンテ、木炭・紙
34・8㎝×27・2㎝（個人蔵）

松本竣介（1912～48年）

あどけない表情の子どもが、しっかりと両手でコップを持っています。小さな手に握られていると、とてもコップが大きく見えますね。

竣介が子どもを描いた作品は、本作のような何かを両手で持っていることが多いです。それは、やはり顔の表情だけでなく手の動きや表情が画家にとって大切だったからなのではないでしょうか。耳の聞こえなかった竣介は、自身の息子とも、身ぶり手ぶりでコミュニケーションをとっていたようです。そんな竣介にとって、子どもの無垢（むく）で純粹な表情を描き出すためには、手の表情を描き込むことも大切だったのかもしれない。

もちろん手だけでなく、やわらかそうな肌や髪の毛、長いまつげで縁取られた瞳など、子どもの純粹さ、かわいらしさを、そこに向けて描かれた画家の温かなまなざしが画面全体からうかがえる作品です。

大川美術館では、16日から「松本竣介 子どもたちの時間」が始まりました。ぜひ足をお運びください。
(池田)

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

